

障害者福祉施設と大学の連携による
地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究

—コラボ・ショール 室津を身にまとう—

STUDY OF AN ART PROJECT OF CO-CREATION
BY A WELFARE FACILITY AND A UNIVERSITY
Collaboration Shawl of MUROTSU

谷口 文保 芸術工学部アート・クラフト学科 准教授

ばんば まさえ 芸術工学部ファッションデザイン学科 教授

小越 将吾 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 実習助手

Fumiyasu TANIGUCHI Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Associate Professor

Masae BAMBA Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor

Shogo OGOSHI Department of Visual Design, School of Arts and Design, Assistant

要旨

「コラボ・ショール」は、NPO 法人えびすと神戸芸術工科大学の連携によって2013年に開始されたアートプロジェクトである。

2013年度は、兵庫県たつの市の龍野地区で町歩きワークショップを実施した。そして、兵庫県立龍野北高等学校主催ファッションショーに参加した。

2014年度は、室津地区で町歩きワークショップを実施し、ファッションショーに参加した。さらに、たつの市立室津海駅館において展覧会を開催した。

本稿は、2014年度の活動報告である。

Summary

Kobe Design University and NPO EBISU are producing an art project "collaboration shawl" in Tatsuno city since 2013.

In 2013, we conducted a workshop in Tatsuno area and made collaboration shawls. And we participated in a fashion show of Hyogo Prefectural Tatsunokita high school.

In 2014, we conducted a workshop in MUROTSU area and made collaboration shawls and participated in a fashion show. After that, we held an exhibition at a museum of local culture to March from February 2015.

This is the report which explains our practice in 2014-2015.

1. 研究の背景

コラボ・ショールは、障害者福祉事業所 NPO 法人えびすと神戸芸術工科大学の連携によって2013年に開始された(注1)。2013年度は、兵庫県たつの市の景観形成地区の一つである龍野地区で町歩きワークショップを実施し、兵庫県立龍野北高等学校主催ファッションショーに出演した。2014年度は、たつの市教育委員会と連携し、もう一つの景観形成地区である室津地区でワークショップを実施することとなった。また、新たな試みとしてたつの市立室津海駅館において展覧会を開催することとなった。

2. 研究目的

この研究の目的は、福祉施設と大学の連携によって、障害者の社会参加を促進し、地域に新たな共同の表現を創出することの意義と課題を明らかにすることである。

3. 研究方法

地域の障害者福祉施設、高等学校、教育委員会、市民団体等と連携し、町を踏査し、領域を超えた交流を通して作品を共同制作し、それをファッションショーや展覧会、アートワークショップ等の方法で地域社会に提示していく。また、こうした活動を学会やシンポジウム等において紹介し、専門分野を超えた議論を誘い出すことによって活動を検証し、その価値化を図り、可能性や課題を明らかにする。

4. 実践活動の概要

4-1 参加者

神戸芸術工科大学 学生 8名

(ファッションデザイン学科1年生4名、クラフト・美術学科1年生1名、2年生3名)

NPO 法人えびす 利用者 8名

4-2 連携組織

大 学：神戸芸術工科大学

福祉施設：NPO 法人えびす(志水哲也代表)

行政機関：たつの市教育委員会

高 校：兵庫県立龍野北高等学校

文化施設：たつの市立室津海駅館専門委員会

市民団体：「鳴屋」友の会

4-3 共同制作のプロセス

えびす利用者と大学生が二人一組になる。一人がデジタルカメラを持ち「カメラマン」になる。もう一人が撮影するものを決める「監督」になる。「カメラマン」と「監督」を交代しながら町を散策し、気に入った風景を撮影する。さらに、撮影した写真を使ってデザインのワークショップを行う。共同制作を通してコミュニケーションを創出し、相互理解を深めていく。このような活動を基にデザインを起こし、プリンター等を用いて布に印刷し、ショールが完成する。ショールは、ファッションショーや展覧会で発表する。ファッションショーには、共同制作を行った二人一組で出演する。

4-4 実施内容

7月19日 ワorkshop「町歩きワークショップ」(たつの市立室津海駅館) (写真1)



(写真1) 「二人一組で町を散策し、写真を撮影」

7月20日 ワorkshop「デザインワークショップ」(NPO 法人えびす) (写真2)

7月-8月 作品制作(神戸芸術工科大学) (写真3)

8月7日 交流会(神戸芸術工科大学) (写真4)

10月5日 口頭発表「障害者福祉施設を起点とする環境芸術の共創に関する実践研究」(環境芸術学会群馬大会)

11月5日-13日 展示「学科横断型プログラム展」(神戸芸術工科大学)



(写真2) 「デザインワークショップ」



(写真3) 「布に印刷する」



(写真4) 「ショールの完成」



(写真5) 「ファッションショーに出演」

11月16日 研究会「アートミーツケア学会神戸大会 分科会 障害者福祉施設を起点とする共創の地域づくりを考える」(デザイン・クリエイティブセンター神戸)

11月22日 発表「兵庫県立龍野北高校総合デザイン科主催 ファッションショー」(たつの市立総合文化会館赤とんぼ文化ホール) (写真5)

12月3日-9日 展示「ハートフルアートギャラリー 障害のある方の作品展」(たつの市役所)

1月17日 講演「地域とアート 生きる力・アートの力」
「鳥取県主催 福祉を変えるアート化セミナーin 鳥取」
(鳥取市文化センター)

2月6日-8日 展示「兵庫県立龍野北高校主催 町ちゅう美術館」(ヒガシマル醤油元本社工場) (写真6)

2月17日-3月15日 展示「たつの市教育委員会主催 企画展 コラボ・ショール 室津を身にまとう」(たつの市立室津海駅館) (写真7、8)



(写真6) 「町ちゅう美術館での展示」



(写真7) 「たつの市立室津海駅館」



(写真8) 「コラボ・ショール 室津を身にまとう展」

2月21日 講演「アートプロジェクトから共生社会へ」
「福祉を変えるアート化セミナーin 奈良」(一般財団法人たんぼぼの家)

2月22日 ワークショップ「室津で作る!アートな船!」
(たつの市立室津海駅館) (写真9)

3月7日 地域交流座談会「福祉とアートのまちづくり
室津から生まれる作品とは?」(たつの市立室津海駅館)
(写真10)



(写真9) 「ワークショップ」



(写真10) 「地域交流座談会」

5. 成果

デザインワークショップを実施したことで、前回よりも参加者同士の相互理解が深まり、ショールのデザインの充実につながった。たつの市教育委員会との連携によって、たつの市立室津海駅館での展覧会やワークショップ、地域交流座談会等が実現した。その結果、コラボ・ショール参加者と地域住民の直接交流の機会が増加し、地域連携が深まった。

今回初めて、活動内容を紹介するパンフレットを作成し、積極的に学会発表等で配布した。こうした取り組みによって、兵庫県外の団体から講演を依頼されるなど、研究交流が拡大した。

6. 可能性と課題

地域連携の深まりは、大きな成果であった。次の課題は、地域住民との交流促進や共同制作となるだろう。また、コラボ・ショールの活動が、地域活性化につながることも明らかになった。それは、福祉施設を起点とする町づくりにつながっている。今後は、障害の有無を超えて、お互いに支え合う地域をどう実現していくかが問題となる。

今回、障害者の就労支援や、室津の地域ブランド創出を視野に、ショールのデザインを活用した製品開発について話し合う機会が何度かあった。こうした議論の中から、共生の町づくりを創出していきたいと考えている。

謝辞

兵庫県立龍野北高等学校、たつの市教育委員会、たつの市立室津海駅館専門委員会、「嶋屋」友の会他、ご協力いただきました地域の皆様に深く感謝申し上げます。

注

1)コラボ・ショールは、本学ファッションデザイン学科卒業生の西本美樹氏の卒業制作を原案に、障害者福祉を目的に町歩きや共同制作を組み込んでワークショップへと展開したプログラムである。

参考文献

「室津の風景 ショールに 福祉事業所と大学が連携」、『神戸新聞』、2015年2月22日、朝刊